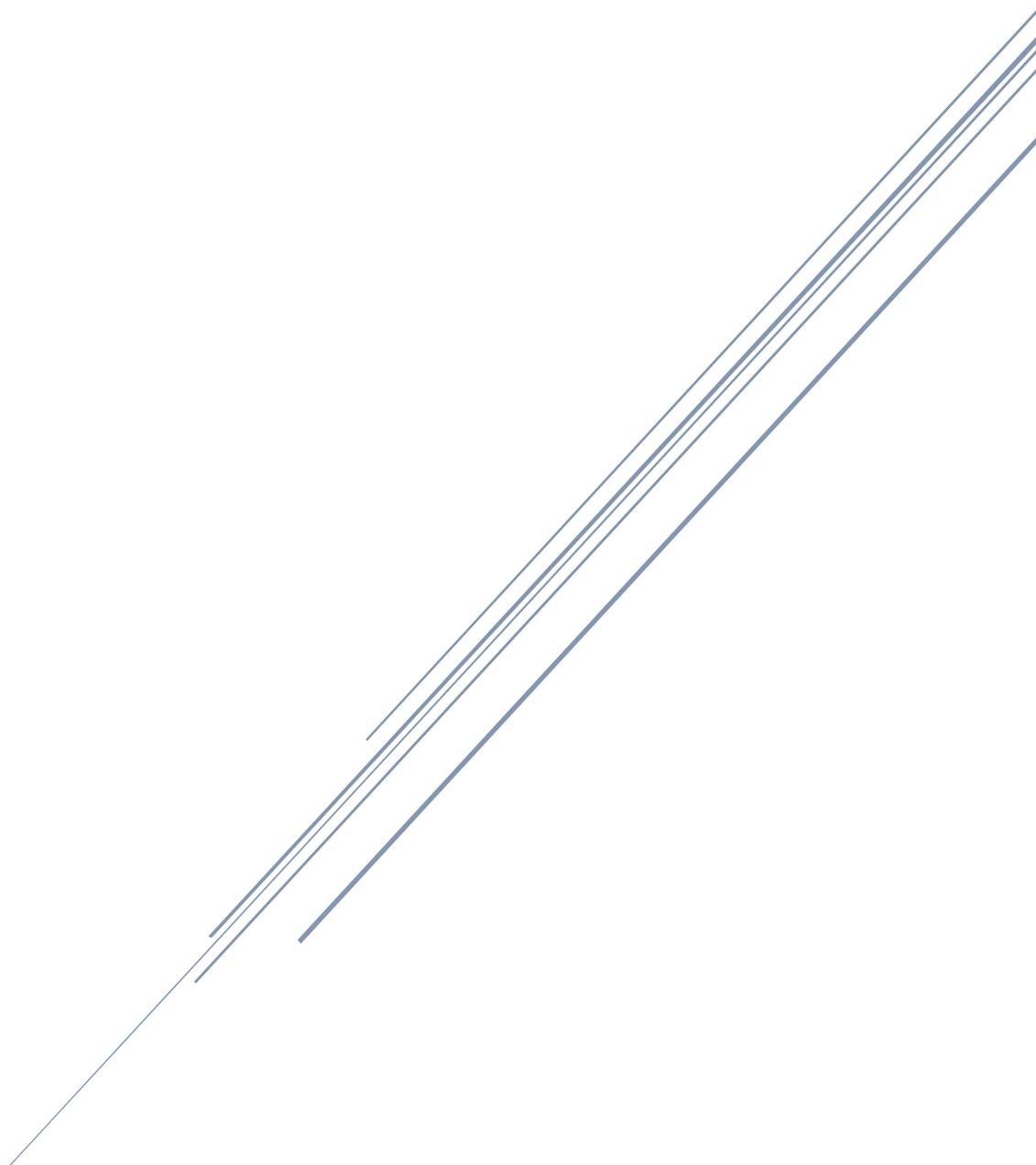


新編常陸国誌

(大洗町関係部分抜粋)



(旧)常陸国(すなわち、現在の茨城県の北・東部にあたる地域)の歴史と地理をとりまとめた書籍には、水戸徳川家第2代藩主・徳川光圀侯がその家臣・小宅生順(おやけ・せいじゅん)に命じて編纂させた『古今類聚常陸国誌』がありました。これからご紹介する「新編常陸国誌」は、それを補なう形で編集された(旧)常陸国の総合史誌です。

江戸時代後期の国学者である中山信名(1787-1836)という人が編纂に取り掛かりました。中山信名は、現在の日立市に生まれ、江戸に出て塙保己一に師事し、『群書類従』の編纂・校訂に力を尽くした人で、天保7年(1836)に亡くなっています。

信名は完成することができませんでしたが、その後、やはり江戸時代の国学者で土浦の人・色川三中が訂正本を転写し、修訂を行い、さらに明治になってから、水戸の史学者・栗田寛が修正・増補を重ねて完成しました。こうして約100年をかけて完成されたものです。

活字本は1899年に初版が出され(加納與右衛門版)、以後何度か復刊されています。大洗町図書室にあるのは、昭和44年11月3日に、宮崎報恩会から復刊本として出版されたものです、780頁にのぼる大冊で、筆者はこれを利用しました。

以下は、大洗町に関係する部分を抜き書きしたものです。

第2巻 『郡名』(p 45～)

巻9 『鹿島郡』(p 47)

和名鈔云、鹿島(加之未、○風土記、香島ニ作ル)、古ノ那珂国及下総海上国ノ域内ナリ、風土記ニ、古老曰、難波長柄豊前大朝馭宇天皇之世、己酉年(○大化五年)、大乙上中臣子、大乙下中臣部兎子等(○安續日本紀、天平十八年三月、鹿島郡中臣部甘畑、占部五畑、賜中臣鹿島連姓)、請惣領高向大夫、割下総国海上国造部内軽野以南一里、那賀国造部内寒田以北五里、別置神郡、其處所有天之大神社、坂戸社、沼尾社、合三處、惣称香島天之大神、因名郡焉(風俗説云、霰雫香島之国、○按海上国ハ国造本紀下海上国造ナリ、軽野、寒田ハ下ニ出セリ、郡名ハ神号ニ拠リタルモ其神号ノ始ハ、地名ヲ称セシナルベシ)トアルニテ、建郡ノ由来明ニ知ラレタリ、

是後中臣子中臣部兎子等ノ子孫、本郡ノ郡領ニ任ゼシト見エ、天平勝寶中大領中臣千穂アリテ、郡司宮司ハ代々同姓ナルコト、類聚三代格ニ載セタリ(○按後世吉田清幹ガ子鹿島六郎成幹地頭トシテ、其子三郎政幹、源右大将家ヨリ鹿島社惣追捕使ヲ命ゼラレ、子孫天正ノ末マデ盤踞セルハ、其始郡司職ヲモ兼撰セシナルベシ)

風土記、和名鈔ヲ按ズルニ、是郡東大海、南下総、常陸堺安是湖、西流海、北那賀、香島堺阿多可奈湖(○按安是ハ浅瀬ノ義ニテ、今銚子口ト云フ處、其常陸原ト称スル香島郡ノ方ハ渚汀遠ク浅ケレバ、安是ト呼ビタルナルベシ、阿多可奈ハ蓋濁沼ニテ、寒田ニ対ヘテ、其水ノヌルメルヲ云フカ)ニテ、白

鳥、下鳥、鹿島、高家、三宅、宮崎、宮田、中村、松浦、中島、軽野、徳宿、幡麻、大屋、瀧尾、新居、伊島、上島等ノ十八郷ヲ官ス、

中世本郡ヲ分テ二条ト為シ、郷戸原以南ヲ南條ト云ヒ、以北ヲ北條ト称セリ、文禄ノ檢地ニ、北辺ノ地茨城郡ニ分属セシガ、元禄中旧ニ復シ、郡域古ニ異ナルコトナシ、其地一百二十四村、四万四千九十余石ヲ包括ス

第3巻 『郷里』(p 52～)

巻18 『鹿島郡』(p 85～)

『宮田郷 美也田』(p 87～88)

和名鈔云、宮田、按ズルニ、今ノ磯浜村ナリ、コノ村モト宮田ト云フ、居人多ク漁撈ヲ以テ業トスルガ故ニ、皆濱浦ニ居ル、其辺磯多シ、仍テコレヲ磯ト称シ、又磯浜ト称ス、元禄中遂ニ宮田ノ名ヲ去リ、磯浜ヲ以テ、定メテ村ニ名ヅク(是村ノ土人宮田ヲ以テ氏トスル者ハ著姓ナリ)

尊卑分脉ニ、参議藤原巨勢麿ノ子右兵衛弓主ノ嫡子宮田ノ伝ニ、従五位下内蔵助母常陸鹿島郡人トアリ、二男助川ノ伝ニハ無官母常陸久慈郡人トアリ、仍テ按ズルニ、鹿島郡ニ宮田郷アリ、久慈郡ニ助川郷アリ、サラバコノ二人ハ、母ノ郷里ノ名ヲ以テ諱トセシモノト見エタリ、宮田ノ母ハ、コノ郷ノ人タルコト見ツベシ、宮田ハ□□□□□比ノ人ナリ(三代実録ニ、往々其履歴ヲノス)、

弘安太田文ニ、北條宮田郷、五十六丁九段小、十八丁一段六十歩古河トアリ、和名鈔、太田文等ニヨリ、地図ヲ按ズルニ、是郷東ハ大洋ニ限り、西ハ蒜間江ノ下流ニ限り、南ハ

大屋郷ニ接シ、北ハ那珂川ニ至リテ、磯浜、大貫ノ二村、二千九百余石ノ地、皆古ノ宮田郷ナリ、コノ郷ハ本郡北條ノ涯ナリ、文禄検地ノ後、茨城郡ニ属セラル、慶長寛永ノ制、亦コレニ准ジ、元禄以後、本郡ニ復ス

『大屋郷 於保夜』(p 90)

和名鈔云、大屋、按ズルニ、大田村ノ西ニ小流アリ、南ヨリ北ニ流レテ蒜間江ニ入ル、コレヲ大谷川ト云フ、大屋訓オナジ、仍テコノ地辺古ノ大屋郷ナルヲ知レリ、(原本頭書田崎村ノ北、大谷川ノ西ニ大谷ト云坪名アリ、コレ大屋ノ本郷ナリ)、大屋ノ義詳ナラズ(但馬養父郡、紀伊名草郡ニ同名アリ、同義ナルベシ、其他大宅、大家等ノ郷名、諸国ニ多シ、コレモ同意ニヤ詳ナラズ)

和名鈔及弘安太田文ニヨリテ、地図ヲ推考スルニ、是郷東ハ東海ニ涯リ、西ハ蒜間江ニ至リ、東北宮田郷ニ接シ、神山、成田(一名夏海)、上太田、下太田、田崎等ノ五村二千八百余石ノ地、皆古ノ大屋郷ナリ、是郷本郡北條ノ域ニアリ、文禄ノ検地茨城郡ニ属セラル、慶長以後ノ制、コレニ同ジ(佐竹家士知行目録、常陸国誌等ニヨル)、元禄ノ度、更ニ旧郡ニ復シテ、本郡ニ属セラル、然レドモ土人文禄ノ制ニナラヒテ、今ニ茨城郡ト称スルモノ、往々ニシテヤマズ

第五卷 『村落』(p 152~)

卷47 『鹿島郡』(p 249~)

【磯浜 伊曾波麻】

東南ハ大海ニ臨ミ、北ハ那珂川ヲ限リテ那珂郡湊村ニ界シ、西南ハ大貫村ニ隣ル、其地南北二十五町、東西二十五町余ニ亘リ[磯

浜志ニ云、東西二十五町余、南北十余町、東南面于海岸、北限于潤沼河、西界于大貫村ト見ユ、コレト少異也]、スベテ十一ヶ町アリ、ホシカ場除ヨリ横町マデヲ明神町ト云ヒ、東横町ヨリ西横町マデヲ一町目ト云ヒ、一町目横町ヨリケツ横町マデヲ二町目ト云ヒ、共に両側ノ町ナリ、ケツ横町ヨリ沢石橋マデヲ仲町ト云ヒ、石橋ヨリ制札場マデヲ金沢町ト云ヒ、制札場ヨリ横町マデヲ通り町ト云フ、並ニ片側ノ町ナリ、御陣屋入口横町ヨリ髭釜横町マデヲ永町ト云ヒ、横町ヨリ大貫マデヲ、髭釜町ヲ云フ、又制札場ノ北ヲ新町ト云ヒ、二町目ノ北養福院ノ下ヲ千手町ト云フ、

此村旧クハ宮田ト称ス、即倭名抄、鹿島郡宮田ノ本郷ニテ、弘安太田文ニ、北條宮田郷五十六町九反小、十八丁一反六十歩[古河]トアル者是ナリ、

延宝七年、今名ニ改ム、其磯浜ト名ケシ故ハ、海岸ニ岩礁多キヲ以テナリ、今西ヨリ東ニツヅキタル著名ノ岩礁ヲ挙グレバ、久下[久某住居ノ下ニアリ、カレコノ名アリ]、大磯[仲町ノ下ニアリ]、長磯[二丁目ノ下ニアリ]、大磯[一丁目ノ下ニアリ]、平磯[沖ナダニアリ、卑俗ビイタイト云フ]、長磯[沖ナダニアリ、一丁目ノ下ニアリ]、鞍掛[馬鞍ニ似タルユエ名ク、明神町ノ下ニアリ]、釜磯[穴アルユエニ名ク、明神町ノ下ニアリ]、大藻崎[海藻生ズルユエ名ク、明神町下ニアリ]、青瀾[波ノウツ毎ニ、洞穴ニアタリ音アリ]、銭磯[丸磯ニテ、凹キユエ名ツク]、畑作[畠ノウネニ似タルユエ名ツク]、竹輪、鯉崎、大島、鮫島、棚家[男女]、大瓶、横磯、稲穂、中磯、平太郎、南張上、北張上、烏帽子[卑俗エビスト云フ]、平潟

[沖ナダニアリ]、四十日、馬洗洞 [又藻洗トモ云フ]、鈴掛、搏梁 [西山公ノ涼所アリシ處]、本畑、曝、強藏、赤磯、牛磯、ノウ下、塀垣、滑磯、砂代、切流、深潤間、勿磯 [卑俗ハンネイト云フ]、打留、箱磯等四十五岩アリ、其他ノ小磯ニ至テハ、記スルニ違アラズト云フ、

元禄十五年ノ戸数六百余軒、石高千七十一石六升三合ナリシニ、天保五年ノ戸数八百六十八軒 [元禄中ヨリ増スコト二百余戸、水戸領地理志云、戸数凡八百四十一]、人口三千七百二十四人 [男千九百九十人、女千七百三十四人]、石高千九十三石三斗五升四合、新田高九十三石三斗八合トナル、

当時所輯磯浜志ノ略ニ曰、文禄二年、中町屋舗割始ル [今ノ上側ハ、往古ハ田圃ナリ、開テ屋シキトナス、今田町ト云フ、田ノ税ヲ貢ス]、間口三十六間、裏行海岸迄、関根若狭 [亦兵衛先祖ナリ]、東間口廿四間、裏行同上、関根土佐 [與一右衛門先祖ナリ]、間口十二間、関根惣介、間口六間 [下通今二町目ト云] 関根鴨衛門、間口六間 [上側今二町目] 関根空之丞、間口六間 [上側同上] 関根彌作是ナリ、左右へ追々宿成テ街ヲナス、ユエニ中町ト云フ、

慶長六年、佐竹庄屋始ル、十年江戸御城石垣御普請ニテ、伊豆大島へ石積当、十一年五月大船一艘出来、公儀ヨリ拝借金三十両済 [水主一人一両ヅツ] 六月四日出船、七月下旬江戸ニ着ス、元和五年、関根若狭大綱操始テ作ル [形状小舌ニ似テ大ナル網ナリト云フ]、備中国七浦粟野甚十郎ト云フ、網財人ヲ下シテ作ルト云フ、寛永二年出船、初漁ニ

浮亀ヲ獲テ持来ル、此亀ヲ村松阿漕へ放ト云フ、是家旧記ニハ絵馬ニ写シ、村松太神宮へ奉納スト云フ [其エマ今ニ存ス]、其後大漁有テ、十七浜網漁始ル、

三年廿分一御浮役始ル [関根若狭上始ムト云フ、明暦三年トモ云リ、先年ハ十分ノ一ナリト云フ]、十一年祝町並木植立ニナル、見取山ト云フ [案ズルニ、若松ノ緑ナルユエニ、緑山ト名付ケシナルベシ]、関根若狭ト云フ者、宮田野端無木山野芝地 [見取山]、依願一円松植立ニナル、郡官ヨリ賞詞為加恩道境西北見通拝領ス、南角へ供養塚法華経一部納埋之ト其家ノ旧記ニ見ユ [供養ハ同八月十五日ト云フ、本文植立費金百三十両、村人其外旅人マデ手伝、酒赤飯出ス]、

十八年御検地始リ、為案内庄屋 [介十郎茂作]、兩人首尾好相スミ、庄屋茂作へ沖ノ州九畝十九歩御検地被下、先年洪水ノ砌リ、川欠ニナリ、村留ニハ有之ト云トモ、無二地ナリ [御領中皆同年ノ御検地帳ナリ、正月ヨリ六月マデニ済ト云フ、七万石打出ス]、

延宝二年、久慈郡久米村ヨリ大綱山願入寺磐船へ曳寺ニナル、今年磐船ヨリ養福院沼端へ引寺ニナル、四年大津波、家数三百廿軒流失ス、関根又兵衛村内為救、金千二百五十両貸出ス、無利息ニテ取立シト云フ [其家今ニ大張所持ス]、同年宮田村へ造酒始ル [高百七十一石、関根又兵衛]、五年十一月、島田村ヨリ俊明山西福寺曳寺ニナル、同年長徳寺島田村へ引替ニナル、七年春宮田村ヲ磯浜ト改ム、天和三年、大洗別当普賢院太里村へ引 [今来光院ト云フ]、大般若阿弥陀寺ヲ遷ス、元禄元年、沖ノ州ヲ願入寺御寄附

ニナリ、祝町ト改ム、今年恵妙院如晴上人京都ヨリ下ル、二年大洗明神磯脇ヨリ山ノ反腹エ引セ、義公御建立、沖ノ州鎮守宇佐八幡ヲ社中ヘ移ス、三年四月祝町ヘ天妃神御建立ニナル、磯原村ニモ御建立、五年磯浜ヘ新川岸始ル、南川岸北川岸〔今北川岸残レリ〕、金三千両御浮役、当時大洗御手洗川ヲ水樋ニテ、長横町マデ引、余水ヲ八反田用水ニ引、一町桶ニツ宛スエ〔此普請一ヶ年余ニテ成就ス、三四年水通就、其後止ム〕、竹木ハ上ヨリ下サル、費金百廿両余、六年七月七日波濤俄ニ起リ、他邦溺死七百五十六人、此日当村漁者六十三人出船、然レドモ隕命者一人モナシ、是誠大洗明神ノ加護ナルベシト云ヘリ、

八年祝町茶屋始テ立、酌取女ト号シ、売婦ヲ抱、妓楼五軒御済シ、繁榮ニ随ヒ、隱居ノ廓ト号シ、外ニ軒御見済〔郷党遺聞云、今ノ湊祝町ハ水戸城ノ丑寅ニテ、悪氣立シ故ニ、人氣ヲ壯ニシテ悪氣酒除ノ為トテ、西山公命ゼラレテ、洗濯屋ト郷号ス、妓楼ヲ立テシメラル、元禄八年九月ノコトナリ、後享保十二年廢ス〕、

九年七月廿六日、磯浜舟子岩城ノ沖ニテ鯉ヲ釣、洋中急遭大風雨、船悉破ル、溺死三千余人、磯浜ノ漁者船ヲ覆ス比ニ、向西大洗ヲ祈ル、船颯而小板ニ乗、漂流スルコト一昼夜、商人船ニ遭、隕命者ナシ、是誠神威ノアラタナル所ナリ、

寛永二年御改革始リ、村金通用〔同六年丑ニ止ム〕、四年大洗神前ヘ綱條卿ヨリ神鏡御奉納、正徳五年八月綱條卿ヨリ大洗本縁御奉納、享保十年大洗大神ヲ山ノ上ヘ引、村ニ

テ建立ス、遷宮ハ八月廿八日ナリ、

十二年七月祝町御潰シニナル〔海老沢津役奉行、長瀬三衛門倅、同林蔵、同役所手代、介川半三郎ノ議ニテ潰ス〕、延享四年祝町再立〔其節御家中ヘ御達ノ写ニ曰、此度那珂湊於祝町、洗濯屋相立候ニ付、諸士中ハ勿論、雖為輕御扶持人、江戸悪所ノ通、罷越候儀、御制禁被仰出候條、其旨堅可相守者也、但又者ハ其主人ヨリ御停止之段屹ト可申付事、右之通被仰出候旨、今日御奉行衆ヨリ申来候、延享四年卯九月晦日〕

《大洗磯前明神》〔官社〕、詳ニ神社篇ニ見ユ、其神殿、枋葺、高九尺、表五尺、妻五尺、神体石二個、一ハ二尺五寸、一ハ八寸、拜殿長二間半、横九尺、前殿長八間半、横三間、鳥居高一丈一尺三寸、横二間、社領六石八斗七升三合、社司ヲ大塚氏ト云フ、

《天妃山媽(姨)祖権現》神殿萱葺、方二間、神体木像長六寸五分、脇立二体軀女体、前殿長五間半、横二間、清俗紀聞曰、天后聖母、一曰天妃、又曰娘々〔俗曰、媽姓姫トモ云ヘリ〕宋朝建徳元年〔本朝当康保元年〕三月廿三日、福建興化府湄州ニテ誕生、父ハ林氏、仕於宋朝、至于刺史官、致仕而彼天后誕生、后自幼少、智恵賢徳超於衆人、十六歳而受道於遺士、二十八歳而化于神〔九月重陽日、白昼化而為神〕、登湄州高山昇天、神靈有感応、世々帝王有勅、而封賜天后、帝免春秋祭祀、造宮廟於滑州、安置神位、其余京師及諸省府州皆有廟、々門前建下馬碑〔自朝廷免之〕、帝王有助、降礼部官於湄州、欽差(キョウ)供香花玉帛、唱祭文而祭之、廟門外設戲台看戲闕云々、華夷通商考曰、天妃神唐福

建興化林氏之女、没於大海為神、々異靈現、而守護渡海船、故諡天妃尊号云々、磯浜志云、此神壽昌山開基心越禪師持来ルヲ、元禄三年庚午四月六日、先君義公御祭ナサレ、海上風波ノ難ヲ救玉フ神也、故漁者悉信仰ス、先年ハ社領ヘ大行燈ヲ拵、毎夜燈明ヲ掲サセ、海上ヨリ認ニナサレリ、中絶シテナカリシヲ天保四巳年、又上公昔ヲ思召シ、石トウロウヲ仰付ラレタリ、祭礼ハ三月廿三日、壽昌派幡二流建リ、一流西ノ方ハ鹿島郡ト書リ、一流東ノ方ハ那珂郡ト書リ、又昔ヨリカブキ御免、此場所三十間四方、願入寺御寄附ヲ除ケラル、

《西福寺》[天台宗、上野世良田長楽寺末、俊明山無量寿院ト号ス]除地十石六斗八升五合、往古水戸十ヶ寺ノ内ナリ、初ハ茨城郡島田村ニアリ、延宝五年此ニ移ス[善福寺棟札]、寺中六ヶ寺、末寺四ヶ寺、磯浜志云、中興開山光海、本尊地藏菩薩ハ行基ガ作、千貫不動一幅ハ智証大師ノ筆、百貫阿弥陀ハ恵心僧都ノ筆ナリ、六供観音[除地一石五升七合]、万徳院[除地五斗一升三合]、持福院[除地六斗五升四合]、来明寺[除地一石]、戒藏院[除地一石二斗八升]、慈眼院今廃ス、除地ハ本寺ニテ収納ス、其末寺ノ村中ニアルヲ観音寺[磐船山養福院]ト云フ、開山泉海、除地一石五斗七升三合、本尊千手観音ハ行基ノ作、磐船地藏石像アリ、延宝二年、磐船ヨリ沼端ヘ引[願入寺久米村ヨリ曳寺ニナルニ依テナリ]、其後正徳元年、沼端ヨリ東光台ヘ引ク[塩崎長福寺末ナルヲ、元禄九年二月、西福寺末大場村善福寺ト引替ニナル]、

《大学院》[修験二階堂下]塩ヶ崎折居明

神別当ニテ、除地五石三斗一升九合[折居明神八幡社領、元禄九年下サル、内半分別当料、五分修理免]、除畠九斗三升七合、磯浜村ニアリ、先年大洗別当ヲ兼テ祭礼免ヲ預リ、毎年三度ノ祭礼ヲナス、其後禰宜大塚大蔵ヘ渡サレ、祭礼免ノ内三分ガ一ヲ分チ与ヘラル、是故ニ今大洗神前ニ於テ祈禱ヲナス[十一月十日]、其下位ヲ仙光院ト云フ、

《願入寺》[一向宗東派、磐船山ト号ス]、事仏寺篇ニアリ、磯浜志云、延宝二年久慈郡久米村ヨリ移ル、寺領三百石、石崎金上ニアリ、寺内除地五万二千坪余[内九千九十八歩ハ、関根又兵衛ノ寄附]御合力金百両、御方料金百両、修理免三十八石八升七合、寺中八ヶ寺アリ、西念寺、正受寺、正安寺、法泉寺、林清寺、西円寺[今廃]、要行寺、乗船寺坊[今廃]ト云フ、

【大貫 於保如伎】

東ハ大海ニ面シ、西ハ潤沼ノ下流ヲ以テ、大場新田ニ界シ、南ハ夏海村ニ接シ、北ハ磯浜村ニ至ル、其幅員東西二十町、南北二十三町ニ余リ、清水町、寺釜町、船渡町、角一町、上宿町、中宿町等ノ小名ヲ有ス、鹿島社文書応永廿八年社領日記ニ、大貫ガウ三十貫トアルモノ、是ナリ、中世大貫氏アリ此地ニ出デシト云フ、元禄中ノ石高千二百十九石九斗八升九合ナリシニ[地理志云、戸数凡百七十一]、天保十三年ノ検地ニハ、田畠百二十六町六反六畝十九歩、分米千六十二石二升七合トナル、

《諏訪上下明神》神殿板葺、高五尺、表三尺、妻二尺八寸、神体幣並石、前殿萱葺、長三間、横九尺、鳥居高八尺五寸、横七尺、社

司ヲ菅谷氏ト云フ、

《西光院》〔真言宗、醍醐松橋無量寿院末、古内山宝生寺ト号ス〕事仏寺篇ニアリ

【神山 加美夜麻】

大貫村ノ西南ニ位シ、澗沼ノ東ニ在リテ、鹿島社文書応永二十八年社領日記ニ、カミ山ガウ十九貫トアルハ是ナリ、心車鈔ニ、亀山村不動堂勤疏ト見ユル、亀山ハ神山ナルベシト云フ、ソノ文中ニ仰願鹿島大明神、勸進塵積如靱山、取材舟着木下岸、奉加露滴加夏海トアリ、元禄十五年ノ石高六百九十六石八斗四升五合、

《浄蓮院》〔真言宗、大貫西光院末〕朱印地五石、

【成田 奈利多】

一名夏海ト云フ、恵範ガ勸進疏ニアルコト上ニ云ヘリ、大貫村ノ南ニ在テ、東ハ海ニ臨メリ、其中古宿、上宿、中宿、下宿、浜欠、矢場、市之沢、松川、石田、大谷川、成田等ノ小名ヲ有ス、元禄十五年ノ石高千百三十四石四斗八升七合、

《神明社》成田修理大夫親綱ノ創立ニテ、正保中林田実季穴戸ニアリシトキ、其領地ニテ、除地五石ヲ奉リ、慶安中朱印ヲ賜テ今ニ絶エズ、

《宝珠院》〔真言宗、大貫西光院末〕其門徒ノ村中ニアルヲ、福性院、明星院、正善院ト云フ、

《悉地院》〔真言宗、大貫西光院末〕血脉云、西光院宥加附法宥教、夏海悉地院開祖、其門徒千手院、宝積院、蓮寿院、慈眼院ハ村中ニアリ、

《成就院》〔真言宗（院？）、大貫西光院

末〕朱印地五石、血脉云、西光院宥朝附法宥覚、夏海成就院開祖、其門徒村中ニアルヲ宝寿院、金剛院、地藏院ト云フ、

《地福院》〔真言宗、神山浄蓮寺門徒〕

《多門院》〔天台宗、塩崎長福寺門徒〕

第六卷 『山川』（p 326～）

卷62 『附』（p 339～）

【蒜間湖 比留麻之衣】

旧名阿多可奈湖〔如字〕、鹿島、茨城二郡ノ間ニアリ、東西十四里、南北二里バカリ、古ヲ以テコレヲ推セバ、那珂、鹿島ノ堺ナリ、俗或ハ日沼〔比奴麻〕ニ作ル、旧誌澗沼湖〔訓同上〕ニ作レルモ、亦俗言ニヨレルナリ、今湖辺ノ土人ニ、コレヲ尋ヌルニ、言所一ニアラズ、或ハ比奴麻宇良、或ハ比呂宇良トモ云ノ類、粉々弁ジ難シ、タダコノ湖ノ水源、大橋村ノ土人伝ヘルモ亦同ジ、全ク比留麻ナリ、其水路ニテ笠間、長岡ノ辺、伝ヘ云ヘルモ亦同ジ、ヨク其語ヲ伝ヘタルモノナリ、風土記香島郡ノ堤堺ヲイヘル所ニ、北ハ那賀香島ノ堺、阿多可奈湖トアルコレナリ、コノ名義考フベカラズ、或云、阿多可奈湖トハ、暖湖ナリ、蓋コノ湖、水勢疾カラズ、水溜滞シテ清冷ナラズ、故ニコノ名アリ、且風土記ニ香島郡ノ内ニ大沼アリ、コレヲ寒田ト称スト載タレバ、暖湖、寒田相對セルノ名ナルベシト云ヘリ、然レドモイマダ定論トシ難シ、後蒜間ニ更ムルモノ、何レノ時ニアルヲ知ラズ、将門記ニ吉田郡蒜間之江辺、拘得掾貞盛源扶之妻、云々ト見エタリ、吉田郡ハ古ノ那珂郡ノ内ナリ、湖東平戸村ニ貞盛ノ宅趾、今猶存セリ、蒜間ヲ以テ名トセルモ、亦日中ヲ比留麻ト云ヘル義ニテ、亦暖湖

ノ意ヲウケタルモノニヤタシカナラズ [< 原本頭書 > 再按、ヒルマハ、広間ノ轉ニテ、セヌマニ對セシ名ナリ、一郡ノ内ニ大小ノ二湖アル故ノ俗称ト見エタリ、セヌマハ千波ナリ]、大掾伝記ヲ按ズルニ、吉田郡一門ノ那中ニ、蛭町氏アリ、蛭蒜其訓同ジ、蓋又コノ湖辺ノ著姓ト見エタリ、コノ湖水源茨城郡大橋村ヨリ出 [古ノ那珂郡]、南流シテ蒜間川トナリ、笠間城ノ西ヲ歷テ、更ニ東ニ轉折シテ、穴戸ノ南ヨリ、□□村ニ至テ、 < 已下原文欠 >

補：水戸領地理誌云、土人広浦ト称ス、三石崎、駒場、海老沢、皆湖ニ浜シ、松川、田崎、網掛、宮ヶ崎等ノ地ニ對セリ、小鶴川ノ下流、駒場、上石崎ノ間ニテ湖ニ合シ、又二三ノ小流アリ、皆湖ニ入ル、湖長二里十二町余、幅十二町ヨリ二十四五町ニ至ル、大貫、島田ノ間ヲ流レ、川又ニテ那珂川ニ合シ、海ニ入ル、鯉、鮒、鱸、白小魚ノ属ヲ産シ、鴈、鴨、鷗（う）鷺（う）等ノ諸鳥多シ、潮汐出入シ、舟船来往ス、常野ノ諸荷物運送第一ノ所ナリ

【大洗磯前 於保阿良比伊曾邪伎】（p 3 4 4）

補：鹿島郡磯浜村ノ岬角ニテ、海上ニ斗出スルコト凡三町余ト云フ、即延喜式鹿島郡大洗磯前薬師菩薩神社ノ鎮座スル所ナリ

卷64 行路（p 3 4 7～）

【陸路】（p 3 5 1）

補：今ノ道路ハ茨城郡水戸ヲ起程ノ地ト定テ、東南ニ向ヒ、下総河原代村ニ達スルヲ、江戸街道ト云ヒ、……（棚倉街道、岩城

相馬街道、南郷街道、那須街道、茂木宇都宮街道、結城街道、瀬戸井街道）……、東南ニ進テ、下総飯沼村ニ至ルヲ、飯沼街道ト云フ、……

【飯沼街道】（p 3 5 2）

水戸ヨリ島田平戸村へ二里五町
嶋田平戸村ヨリ大貫村へ二十二町 川一
大貫村ヨリ成田村へ二十二町 坂七
成田村ヨリ子生村へ一里二十四町
子生村ヨリ靱山村へ三十町
靱山村ヨリ汲上村へ二里四町
汲上村ヨリ飯島村へ二十九町
飯島村ヨリ宮中村（鹿島ノ事）へ三里八町
宮中村ヨリ息栖村へ二里十町
息栖村ヨリ日川村へ一里二十六町
日川村ヨリ谷田部へ二里六町
谷田部村ヨリ東下村へ一里二十四町
東下村ヨリ銚子口へ一里六町

【海路】（p 3 5 2）

補：那珂湊ヨリ下総飯沼村銚子ノ口へ海上二十里、同湊ヨリ常陸ノ国内平方ノ湊へ海上拾七里半、

海面ハ何ノ風ニモ舟掛リ悪シ、内川へ舟ヲ入レバ何ノ風ニモ舟掛リヨシ、内川へ舟ヲ入レバ二三石積ノ舟ニ三百艘程ハカ、レリ、那珂川ノ落口ナレバ川上へ上スレバナホアマタ掛リ得ベシ、川口浅ク鹽時ヲ待テ始テ舟ヲ入ルベシ、川口ニ陸ヨリ四町程ノ内岩五ツガ有リ、内四ツハ、ボツ木ヲ立テ、四町沖ニ有ル岩ニハ鹽干ニモ水ノ内ニカクレテボツ木ヲ立テズ、

平方湊ヨリ奥州ノ内小名ノ浜へ四里

平方湊ハ北風ニハ舟掛リ悪シ、其外ハ何ノ風ニモヨシ、二三石積ノ舟四十艘程懸レリ